

郵便  
報知新聞  
第百八十一号

深川の唄妓小三井上文雄翁の弟子とて  
歌の達吟手跡も美事多うなれば大い時  
木ありし主姉の杖いろも姉の鏡此二藝  
と能く是の上心さるるは正しければも  
杖と頼む男の外更お移さるるにせ  
さしと或る時去る大家の隠居の骸も  
歌も腰折るる人目と忍びと葉の短冊  
とわらわ杖お入れば何やらとてなごらに  
おまじりて命うらやまと思ふれ  
君うひとよの露のあまきりに  
とほりしをいろの果と果さししが年寄  
に赤穂かきせんをさふかに思ひその端お  
一枝梨花壓海棠館所あつる目も  
いらねんといふと認めて度せしとて

松林伯圓記



大橋  
伯圓